

修正箇所一覧表(平成22年4月12日修正)

概要版及び本体の数値の丸め方等について、整合をとるための修正等を行いました。

<概要>

頁	修正項目	修正前	修正後
3	【建築物】(業務部門) 既存建築物 2020年:既存建築物の平成11年基準以上の基準達成率	68%	67%
5	【モデル分析結果②】	-	「これらの加速的な普及が実現した場合には、」を追加
5	【モデル分析結果②】(点線枠内)	～所得が上回る。	～所得(等価変分で計測)が上回る。

<本体>

頁	修正項目	修正前	修正後
23	Group D 高断熱化 投資回収額	1万円/年	2万円/年
34	分析結果:マクロモデル 炭素税を導入した場合の排出量(90年比)	▲9%	▲8%
90	ゼロエミ住宅 ①-2 高効率給湯器 ヒートポンプ給湯器 対策導入量(2020年▲25%)	1,600	1,640
	①-2 高効率給湯器 ヒートポンプ給湯器 対策導入量(2020年▲25%)	2,500	2,520
91	ゼロエミ建築 ②-5 太陽光発電 対策導入量(2020年▲25%)	2,680	2,560
95	ゼロカーボンエネルギー ⑥-2 風力発電 対策導入量(2020年▲25%)	1,130	1,131
31	分析結果の記述(黄色枠内)	コスト低下を見込む場合には	コスト低下が進み、これらの加速的な普及が実現した場合には